

HPC 分科会 2026 年度会合

「AI・HPC サービスを支える基盤技術

～ SS 研 会員限定 ～

■ 日時 : 2026 年 12 月 22 日(火) 14:00～17:20 (受付 14:30～)

■ 場所 : JR 川崎タワー 20 階大会議室 M201
(住所: [神奈川県川崎市幸区大宮町 1 番地 5](#))

■ 開催方法 : ハイブリッド開催 集合+オンライン配信 (ZOOM)

■ ご参加について

- 参加対象 : SS 研会員限定
- 参加費 : 無料

■ 開催趣旨

従来の科学技術計算 (HPC) から AI 学習・推論、そして最新の AI エージェント活用へ。高性能計算機システムを取り巻く環境と求められる機能は、急速に変化しています。システム運用技術を刷新する機会が「システム導入・更新時」に限られるからこそ、新たな AI・HPC サービスを安全・効率的に提供・運用するための基盤選定は、今後のシステム運用の成否を分ける極めて重要なプロセスです。本イベントでは、最前線のスペシャリストを講師にお迎えし、最新の導入事例から次世代のハードウェア/ソフトウェア基盤技術まで、システム選定・運用に直結する実践的な知見をお届けします。

■ プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。)

-敬称略-

11:50～	現地受付 ※12:00～ポスターセッション/展示
	[司会] 本郷 研太 (北陸科学技術大学院大学)
14:00～14:05	開会趣旨説明 南里 豪志(九州大学)
14:05～14:50 講演 35 分 Q&A 10 分	[1] 『AI 時代の HPC 基盤とシステム運用 ～スーパーコンピュータ「理究」におけるサービスと運用の取り組み～』 山本 啓二 (理化学研究所) 理化学研究所は、2026 年 3 月に AI for Science 向けスーパーコンピュータ「理究」を導入しました。「理究」では、従来の HPC で用いられてきたバッチジョブの実行環境に加え、AI から計算資源を利用する仕組みや、AI 自体を動かす実行基盤を整備しています。また、システムの構築初期から、AI エージェントを介した運用にも取り組んでいます。本講演では、これらの取り組みを支える基盤技術とその選定理由を紹介し、AI エージェント時代の HPC サービスとシステム運用のあり方を考えます。
14:50～15:35 講演 35 分 Q&A 10 分	[2] 『AI 研究を加速するスーパーコンピュータ「不老・弐」の紹介』 星野 哲也 (名古屋大学) 名古屋大学情報基盤センターでは、2026 年 10 月よりスーパーコンピュータ「不老・弐」の運用を開始した。本システムは、大規模な CPU 計算環境に加え、NVIDIA GB200 を搭載した GPU 計算環境を備え、従来の数値シミュレーションから AI モデルの学習・推論まで幅広い研究を支援する。本講演では、「不老・弐」のシステム構成や特徴、AI 研究を支える利用環境を紹介するとともに、AI と HPC の融合による新たな研究の可能性について展望する。

(裏面に続く)

15:45～15:45	休憩(10分)
15:45～16:30 講演 35分 Q&A 10分	[3] 「半導体技術の進化と Transformer 推論時代の次世代 AI 半導体について」 的矢 知樹 (株式会社 Preferred Networks) ChatGPT の登場以降、AI の需要は伸び続け、同時に半導体の需要も急激に伸びている。AI アルゴリズムも少しずつ変化し、Agent の活用等が進んでいる。AI 計算に必要とされる計算性能の変化と、現代の計算機で実行する上でのボトルネックについて紹介する。そして近年の半導体技術の発展と、AI 計算を効率よく実行できるようなそれらのボトルネックの解消方法について議論し、PFN のアプローチを紹介する。
16:30～17:15 講演 35分 Q&A 10分	[4] 「Kubernetes を主軸としたオンプレミス AI 基盤の構築と運用 -極少人数で AI 基盤を作って運用を回すには何が必要だったか-」 松田 一仁 (富士通株式会社) HPC 環境における AI、特に生成 AI の活用が研究開発の新たなフェーズを切り拓いている。本講演では、富士通のエンタープライズ向け大規模言語モデル「Takane」の技術と応用事例を紹介する。材料探索における因果関係の自動説明や、専門業務を支援する AI エージェントに加え、大規模モデルの知識を HPC での利用に適した軽量な特化 AI へ蒸留する最新技術にも触れる。これらの事例を通じ、AI と HPC の連携が拓く研究開発の未来像を展望する。
17:15～17:20	閉会挨拶 立川 智章(東京理科大学)

■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込みください。

<https://www-uf01.ufinity.jp/ssken/>

※オンライン参加用のアクセス URL は 2026 年 12 月 18～21 日にお知らせさせていただく予定です。

HPC 分科会 2026 年度会合は、SS 研冬イベントの一部です。同日に開催する教育・研究システム分科会 2026 年度会合やポスターセッション／展示、終了後の意見交換会の開催もありますので合わせて参加のご検討をお願いします。



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会（SS 研）事務局

神奈川県川崎市幸区大宮町 1-5 JR 川崎タワー

富士通(株) MCS 事業本部 TC 事業部内

Email: ssken-office@ml.css.fujitsu.com

URL <https://www-uf01.ufinity.jp/ssken/>